

## 編 集 後 記

本誌の編集委員を拝命して、もう3年を過ぎようとしています。本誌は電子ジャーナルとなり、順調に投稿数を維持し、またアクセス数も1年間で100万件を超えています。従って、編集委員は、毎日査読に追われる日々であります。本誌は臨床神経学のアップデートな情報を会員の皆様に提供している媒体として極めて有意義であると考えております。今後も会員の皆様からのさらなる投稿をお待ち申し上げますので、よろしくお願い致します。

さて本誌は、筆頭著者が若い会員である症例報告が多いことが特徴の一つですが、3年前に比較すると、投稿規定を遵守し、考察の論理的思考展開が理解しやすい論文が増えてきたかなーと感じるこの頃です。こんな雑感私だけかもしれませんが(笑)、編集委員の一人として、正直うれしいです。確かに、未だ文献検索や引用論文の読解がやや不十分な報告もあり、読みながら自分の顔がしかめ面になり、頭を抱えて四苦八苦する査読(基本的には可能な限りリジェクトするのではなく、大幅改変でも投稿への道を残すようにしていますので…)もまだ時に見受けられますが、その頻度が少なくなってきたと感じています。本誌は、ある意味において日本の神経内科医の診療レベルの鏡とも言えます。どうか、若い会員におかれましては、今後もご

留意賜り、独善に陥ることなく、十分に過去の論文を精査して頂き、論理展開が明快なレベルの高いかつ投稿規定に準拠した論文を投稿されることをお願い申し上げます。

最後にですが、いまの神経内科医の取り巻く環境は、新専門医制度や診療報酬上の収益の確保しにくいことなど、数多くの難題が有り、決して楽観できる状況ではありません。臨床の現場においては、外来・病棟をきちんと行った上で、疲れた身体と頭に鞭を打ち、その間に教育・研究もして、その結果を投稿するという作業は正直きついと存じます。しかしながら、神経学の創成期の諸先輩は、我々よりももっとはるかに厳しい環境のもとで、「日本の神経学」に対し愛情とプライドをもって、頑張ってきたということを考えれば、我々も頑張るしかないと考えます。若い先生方におかれましても、将来の「日本の神経学」を自分が担うのだというプライドを持ち、日本の神経内科医の診療レベルを世界に発信する一つの手段である本誌への投稿については、より一層、十分にご推敲なされた上で、作成してお送り頂きたく心よりお願い申し上げます。会員の皆様の更なる発展をお祈りして、この編集後記とさせていただきます。

(亀井 聡)

### 〈 編 集 委 員 〉

編集委員長 鈴木 則宏      編集副委員長 河村 満  
 編集委員 荒木 信夫   飯塚 高浩   池田 昭夫   亀井 聡  
           瀧山 嘉久   西野 一三   野村 恭一   星野 晴彦  
 編集委員(幹事兼任) 園生 雅弘   高尾 昌樹   森 秀生

「臨床神経学」	第56巻 第5号	平成28年5月1日発行	
編 集 者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル		一般社団法人日本神経学会
発 行 者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル		高 橋 良 輔
印 刷 所	〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入		中西印刷株式会社

発 行 所   〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル  
 日 本 神 經 学 会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>